

Eureka X

六年制通信 No.31 令和5年1月13日(金)号

人生に再放送はない

二学期の終業式で理事長先生が取り上げられた、ニール先生が残されたポストカードの英文を紹介します。Live every day as if it were your last.です。みんなに覚えてほしいから、少し英語の解説をします。これ、割と意識されていないかもしれませんが「毎日を生きよ」という時、Live everyday.とは言えません。理由は簡単で、everydayは形容詞だからです。ですから、everyday clothes（普段着）とかeveryday life（日常生活）のように使います。一方every dayは名詞にも副詞にも使います。従って「毎日を生きよ」という場合は、Live everyday.ではなくLive every day.なのです。一日一日を、と強調したければevery single dayくらいでしょうかね。「as if+仮定法」は「まるで~のように」の意味で、次のitはevery dayを指しています。また、仮定法のbe動詞にはwereが使われています。このwereですが、今ではwasでも正解とされています。さらに、仮定する強さによって二つを分け、wereの方がwasよりも「起こりえないこと」に使われると解説する本もあります。しかし本来、仮定法のbe動詞はwereでも、ましてやwasでもなくwereに近い別の語形でした。現在たまたまareの過去形と同じ語形になっているに過ぎません。ですからこれからはニール先生に倣って、私たちはwasよりもwereを使うことにしましょう。最後のyour lastはyour last dayのこと。教科書ふうに全訳すると「毎日をまるで最後の一日であるかのように生きなさい」、意識すると「今日という日を最後と思って生きなさい」、あるいは「明日という日は来ないと思って今日を生きなさい」でしょうか。ここまで読んで、前に紹介したマハトマ・ガンジーの「明日死ぬかのように(今日を)生きよ Live as if you were to die.」を思い出した人がいるかもしれません。しかしここに使われているwere to dieは「まず死ぬことはないが…」が前提となっています。つまり仮定の意味が最も強いのですね、were to っ。ニール先生の英文からは彼の切実な思いが伝わってきます。

人生には再放送はありません。巻き戻しも早送りも、一時停止すらありません。ただ一度きりの人生です。私たちが生を受けた時、何者かが、それは神様なのか何なのかわからない、いずれにしても人知を超えた何者かが私たちの人生の再生ボタンを押してくれたのですね、きっと。命がけで生んでくれた母親は、そういった何か大いなる意志の手助けをしてくれたのだ、私はそう思っています。再生が終了するまで、私たちは生きなければなりません。一度きりの人生を精一杯生きなければなりません。ただ、困ったことに私たちは再生がいつ終了するかを知らされていません。大いなる意志は、ただ再生ボタンを押して「生きろ」と命ずるだけです。もし大いなる意志や神様がいるの

なら、スクリーンに映し出された様々な人生をどこかで観ているのかもしれませんがね。

また、私たちは生を受ける時間と空間、つまり時代と場所を選べません。どの時代どの地域に生を受けるかで、私たちの人生は大きく左右されます。私たち個人の努力ではどうにもならないような過酷な時代や地域もあるわけですからね。私たちが生きていく上で基本となるのは衣食住ですが、その心配のない時代や国に生まれるのは幸運ですね。歴史を習えば、君たちは史上稀に見る恵まれた環境に生きているのが理解できるはずですが、ただし、恵まれているのは「物質的に」です。豊かさが精神を脆弱にしているように思えてなりません。「今日を最後と思って生きる」ことは非常に厳しく難しいことですが、豊かな時代だからこそ忘れてはならない言葉なのでしょうね。

今週のおすすめ

・ 関根正雄 訳 『ヨブ記』 (岩波文庫)

トム・クルーズの「ミッション・インポッシブル」第1作目に『ヨブ記』の第3章14節を敵にメールするシーンが出てきます。よかったら観てごらん。

旧約聖書は新約聖書以上に口語訳で読む気にならないのですが、文語訳だと今度は慎重に読まないといえれば二重否定など、誤解してしまう危険性があります。それで関根正雄の翻訳くらいがちょうどいいかと思い、これを選びました。文語訳では「サタン」となっているところを「敵対者」とし、それにサタンとルビを振ったりしていますが、ま、内容を知るには大丈夫です。神はヨブを善良と認めるが、サタンはそれは神がヨブを守っているからで、もし彼からあらゆる物を取り上げたら神を呪うに違いないと言う。ではやってみるがいいと神はサタンに命じる。これがヨブの苦しみの始まり。すべての財産と子供たちを失い、体中を腫物で覆われる。神は何故自分にこのような苦しみを与えるのか、ヨブには理解ができない。友人たちはヨブが何か不正をしたからだと言うが、自分は潔白だと主張するヨブ。ついにヨブは神は正義を行っていないと主張するようになる。そんなヨブに神は語りかける。お前は私がどれだけのことをしているのか知っているのか、代わりにできるならやってみるがいい、と。この辺り、ちょっと子どもっぽい感じがしますが、ヨブごとき、というか一人の人間に神の行いのすべてを理解できるはずもなく、安易に神を批判することなどできない。それがわかってヨブは悔い改め、以前の倍の繁栄を与えられる。しかし『ヨブ記』において、神は善人が苦しむ理由を語ってはいない。人間にとって、神の計らいの理不尽さは答えの出ない永遠のテーマなのですね。

冬休みに『聖の青春』を読み返して、どうして村山聖という青年が5歳から難病を患い、29歳の若さで死ななければならなかったのか。それで『ヨブ記』を思い出したわけですが、世の中には人知を超える働きがあるとしかわかりませんでした。

ところで『ブルース・オールマイティ』という映画は、神の仕事の代行をさせられる男の物語です。『マスク』のジム・キャリーがその男を演じ面白いコメディに仕上がっていますが、ヨブ記がヒントになっているのでしょうかね、きっと。

BGMは ZARD の負けないででした…。